

確かめは不要なのか？

小学校第5学年で $2 \div 3 = \frac{2}{3}$ のように、自然数どうしの除法の商を分数を用いて表すことを学習する。わり算の確かめについても学習してきているが、それは次のような式であった。

$$(\text{わられる数}) = (\text{わる数}) \times (\text{商}) + (\text{あまり})$$

今の場合はあまりがないので、 $(\text{わられる数}) = (\text{わる数}) \times (\text{商})$ をすればよいから、 $2 = 3 \times \frac{2}{3}$ となることを確認することになろう。しかし、乗数が分数のかけ算は6年生にならないと学習しないので、この確認はできない。

せめてかけ算の交換法則を使って、 $2 = \frac{2}{3} \times 3$ の計算ができればよいのだが、平成29年の指導要領のときに、これも6年生に移ってしまった。

中学校の学習を考えると、分数の学習の中でもこの商を分数で表すことは重要である。その学習において、確認をしながら除法の結果を納得することができない状況というのは、ちょっとよろしくないのではないだろうか。

【算数・数学教育におけるIAQに戻る】